

地域連携室

地域連携副室長 武田 美幸

1 部門目標

- 1) 地域に密着した医療サービスを提供するため、地域医療機関との情報交換や連絡調整を行い、病診連携・病病連携を推進する。
- 2) 入退院支援の相談機能の充実
 - ・病棟担当制 看護師/社会福祉士
 - ・入院前からの支援強化
- 3) 制度医療に関する相談機能の充実
 - ・FAST 及び助産制度利用

2 業務体制・スタッフ

室長（医師）1名

看護師 4名（副室長 1・主任 3）

社会福祉士 3名

非常勤事務員 4名

3 業務実績

(1) 病診連携

表 1 年度別紹介患者統計（件）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
紹介患者登録	9330	9394	8718	9214	9813
千葉市内	7513	8066	7320	7542	8211
登録医	2979	2812	2522	2586	2798

表 2 医療機器の共同利用

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
MR	229	260	180	207	153
C T	65	98	83	50	57
内視鏡	51	48	18	20	6
脳波	107	90	102	91	77

表 3. 予約方法（件）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
FAX 予約	1657	777	599	448	413
電話予約	1753	2880	3313	3379	3379
電話再診予約					26

表 4 紹介率と逆紹介率の推移 (%)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
紹介率	59.6	66.9	65.3	68.7	72.4
逆紹介率	89.7	73.5	52.0	49.3	58.9

表 5 登録医 医療機関数 (施設件数)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
登録医療機関	192	178	170	168	175

(2) 相談対応・退院調整

表 6 対応件数

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入退院支援加算 1		779	468	507	486
入院前介入				62	54
入退院支援加算 3		204	185	199	226
退院時共同指導料 (うち 3 者以上)		11 (2)	13 (1)	25 (8)	8 (4)
介護支援等連携指導料		185	203	111	96
連携機関・事業所との面会		284	359	313	413
FAST 件数	47	106	115	139	184
助産施設利用件数	17	28	19	29	31

*

H30 年度より、相談件数の統計方法変更あり

(3) 地域医療支援病院に関する業務

医療法に基づき、地域医療支援病院運営委員会を開催。施設要件である地域への医療関係者に対する研修・講演会開催広報を行った。

表 7 令和元年度地域医療支援病院運営委員会

第 1 回 令和元年 7 月 25 日	地域医療支援病院実績報告 他	外部委員 9 名 内部委員 9 名
第 2 回 令和 2 年 2 月 27 日	中止	

表 8 令和元年度 地域の医療従事者等に対する研修・カンファレンス実績

公開カンファレンス	小児・内科他 全 9 回	院外参加者 93 名 院内参加者 164 名
公開講演会・研修会	2 回	院外参加者 21 名 院内参加者 319 名
周産期新生児イメージカンファレンス	2 回	院外参加者 31 名 院内参加者 13 名
感染防止地域連携合同カンファレンス	4 回	院外参加者 25 名 院内参加者 19 名

(4) その他の活動

千葉県がん診療連携協議会（院外）への参画

千葉県児童虐待対策研究会（院外）への参画

千葉市要保護児童対策実務者会議（院外）への参画

地域医療推進委員会（院外）への参画

各区地域医療介護推進会議（院外）への参画

美浜区連携の会（院外）への参画

4 1年間の総括

近年逆紹介率が伸び悩んでいたが、令和元年度は逆紹介率が上昇となった。

地域医療支援病院の施設要件の紹介率、逆紹介率共に今年度もクリアすることができている。今年度は支援パートナーとの協働により、地域の医療機関訪問の充実を図り、顔の見える関係の構築を推進することができた。海浜病院に対する意見を吸い上げ問題点の改善を図る事で紹介率、逆紹介率の向上に繋げる事ができたと考える。

当院の登録医制度は、開院当初からの地域の医療機関との共同診療システムである。平成 30 年に新規登録があったが、閉院する医療機関も有り、総数としては減少となっていた。しかし、今年度は増加に繋がっている。登録医含む他の医療機関からの紹介数も増加しており、医療連携を強化している事で、スムーズな地域医療の提供を実施することができている。

予約業務については電話予約の増加に伴い、FAX 予約は減少傾向ではある。紹介状のある患者さんからの事前電話予約が定着している事で、紹介元の医療機関の負担軽減にも繋がっていると考えられる。

また COVID-19 による緊急措置対応として電話再診制度を導入し、3 月より対応を開始、次年度の対応へ繋げている。

平成 30 年度の診療報酬改定以降、入院前からの退院支援が推奨となり、連携室でも多職種連携を強化している。また院外においては、在宅療養を支える往診医師、訪問看護師、地域包括（千葉市あんしんケアセンター）介護支援専門員との協働による入退院支援を強化している。しかし本年度末は COVID-19 の感染拡大の観点から、外部機関や院外関係者との面談やカンファレンス等対面での連携が制限され、介護連携指導料や、共同指導料の件数は減少となった。今後の社会情勢を鑑みると、リモートによるカンファレンス等の対応も検討課題になる。

当院は、救急医療、周産期・小児医療の役割と機能を強化している。高齢者や、通常の小児・新生児の受診だけでなく、児童相談所保護下の子供の受診相談や、助産施設でもあることから特定妊婦に関する相談も年々増加傾向である。多岐にわたる複雑な相談内容の事が多いが、相談者に合わせ、丁寧かつ迅速

に適切な対応を心がけている。

地域の医療従事者等に対する研修・カンファレンスや、地域医療支援病院の運営委員会についてはCOVID-19の影響で例年の回数開催が出来なかった。研修や公開カンファレンス、地域医療支援病院運営委員会についても、今後リモートによる対応を検討していく事が必要になると考える。

5 今後の目標

- ・地域医療機関に対し各診療科の特徴や紹介予約等の情報発信に努め、紹介率・逆紹介率の更なる向上を目指す。
- ・院内外の多職種との関係構築を充実させ、入院前からの退院支援体制の強化に努める。
- ・少子高齢化、認知症患者の増加に対応できるよう高齢者、認知症ケアの充実した支援強化に努める
- ・小児虐待予防、対応、助産制度利用の適切な対応に努める
- ・COVID-19に関する電話再診のスムーズな対応
- ・近隣のクリニック、連携医療機関、後方支援病院との顔の見える関係構築の強化継続に努める